

新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止について

日頃より本校の感染症対策にご協力いただき、ありがとうございます。

今年、新型コロナウイルス感染症に関して、感染した個人や医療機関、事業所等を特定して非難したり、感染者と同じ職場の人や医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言ったりするなどの差別や偏見、誹謗中傷が大きな問題となっています。

現状では、誰もが感染する可能性があり、感染症への対策を徹底しても、学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。

したがって、感染した人を責めるのではなく、普段から衛生管理を徹底し、さらなる感染を防ぐことが大切となってきます。感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながってしまいます。その点からも差別等を防ぐことは、絶対に必要なことです。

また、「自分自身が差別をしない」ということだけでなく、身の周りに差別や偏見につながる発言や行動があったときには、それらには決して同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげてほしいと思います。人々の優しさは、ウイルスとの闘いの強い武器になるのです。

感染症とそれらがもたらす社会の変化に対して、科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。